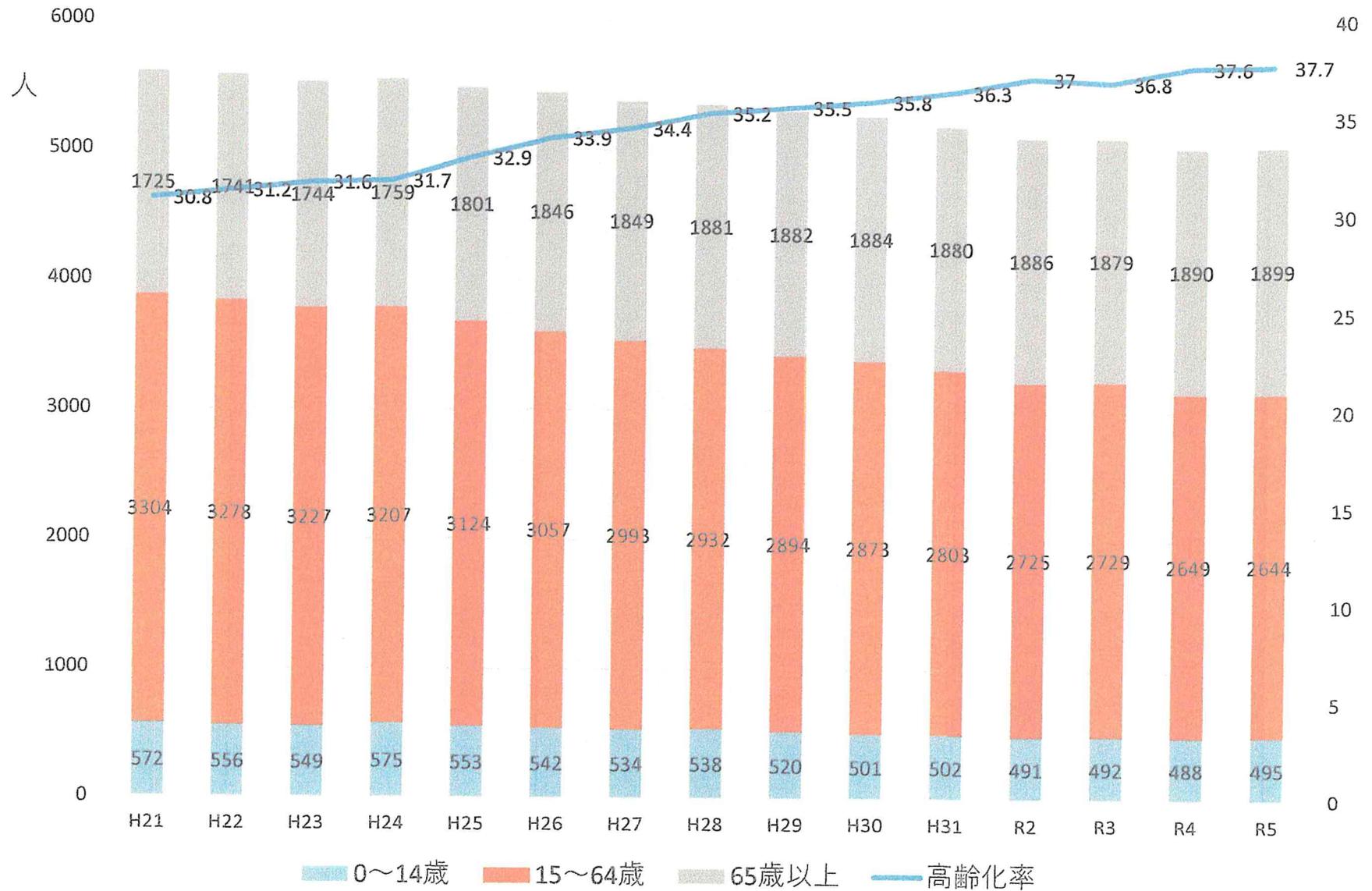


人口動態から見た江戸川台東地区

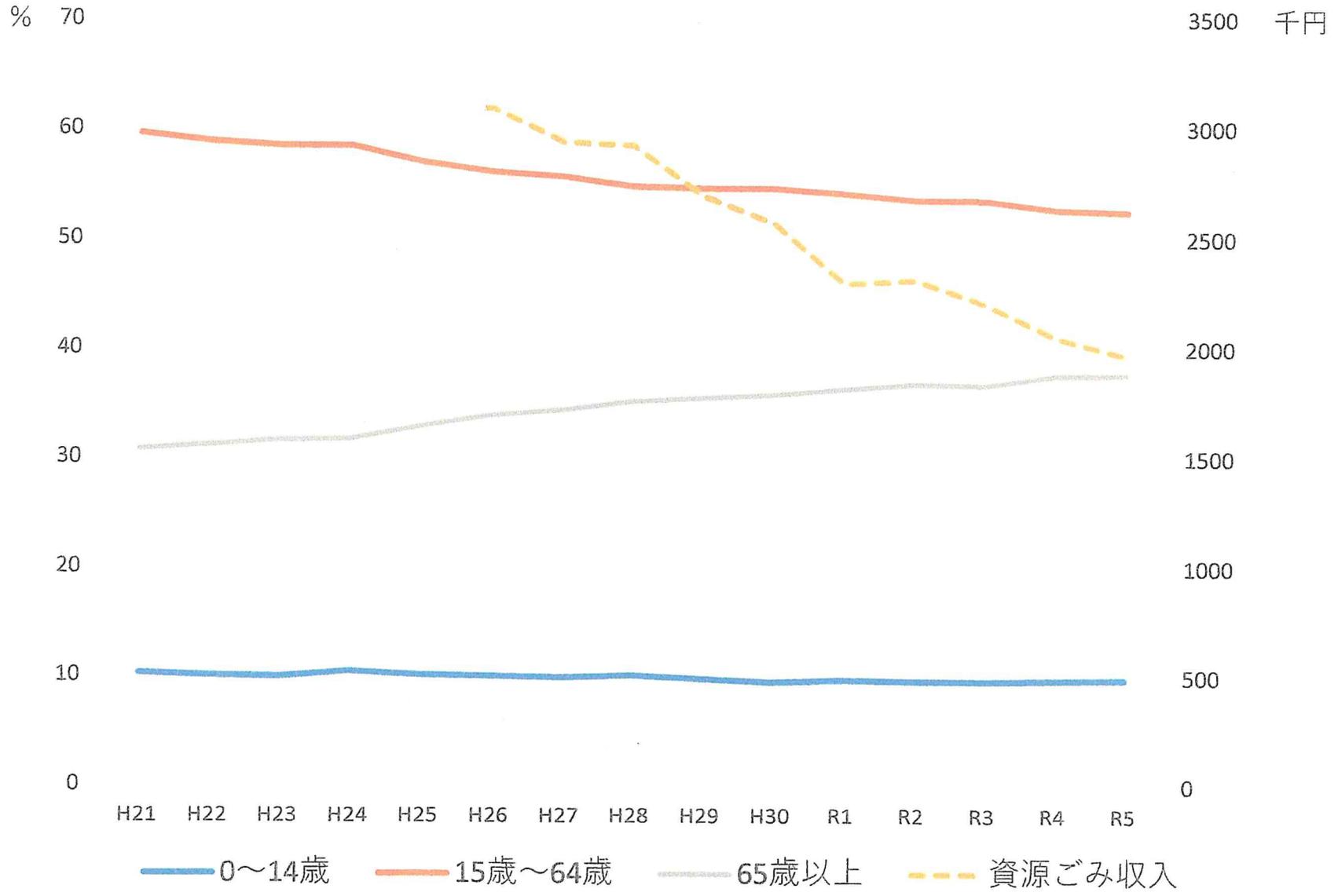
江戸川台東自治会

三好 和彦

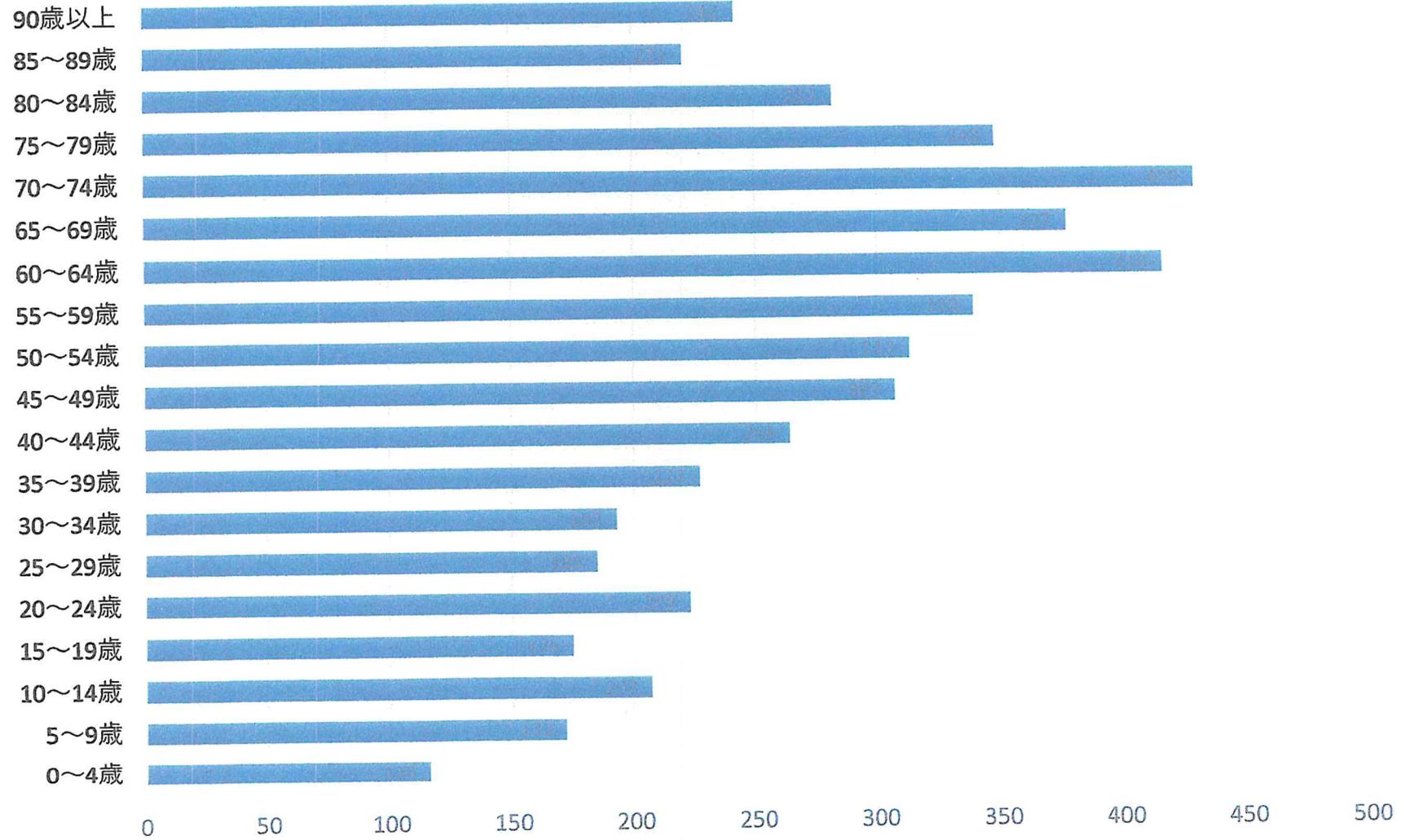
江戸川台東地区の年齢階層別人口の変化と高齢化率の変化



江戸川台東地区の年齢階層別割合の変化と資源ごみ収入の推移



江戸川台東地区の年齢階層別人口 (R5年4月1日)



まとめ

表 1

- ・江戸川台東地区の人口は継続的に減少し、この14年間で10.2%減少した。しかしここ1～2年減少幅が鈍化または横ばいの傾向が見られる。
- ・65歳以上の高齢者世代の人口は、14年間で10.0%増加した。
- ・15歳から64歳の働く世代の人口は、14年間で20.0%減少した。
- ・14歳以下の子ども世代の人口は、14年間で13.5%減少した。しかしここ数年下げ止まりの傾向がみられる。
- ・高齢化率は平成21年は30.8であったが14年後の令和5年には37.7まで上昇した。特に、団塊世代が65歳を迎えた時期以降急速に上昇している。

表 2 -1

- ・年齢階層別の各世代の割合は、15歳から64歳の働く世代の割合が59.6%から52.5%に減少するとともに、65歳以上の高齢者世代の割合は30.8%から37.7%まで上昇した。
- ・14歳以下の子ども世代の割合は、人口が減少しているにもかかわらず、10.2%から9.8%と減少幅は少ない。

表2-2

- ・地域の集団回収で得られる「資源ごみ収入」の推移（10年分）をみると、平成25年度当時300万円を超えていた収入が、令和4年度には200万円を下回るまで減少している。これは地域の消費活動の縮小を反映しているものと考えられる。

表 3

- ・60～64歳人口を考えると、5年後には65歳以上の高齢者の割合が44%程度となることが予測される。